糖尿病専門医に聞く

糖尿病内分泌科部長　村上（むらかみ） 史峰（しほう）
総合内科専門医、糖尿病専門医
人間ドック健診専門医、遺伝学的検査アドバイザー
認知症専門医、日本人類遺伝学会会員

軽薄短小な医療（予防医療）について

医学の流れは「重厚長大（じゅうこうちょうだい）」なものから次第に「軽薄短小（けいはくたんしょう）」なものに変わりつつあるようです。変化を決定づける事柄は「2025 年問題」です。

「2025 年問題」とは、団塊の世代が全て 75 歳以上、人口統計の言葉では「後期高齢者」になることを言います。75 歳以上の方々の医療の特徴として、若い世代の３倍以上の医療費負担が生じると過去のデータで示されており、少子高齢化で高齢者を支える人が減っている中で「さあ医療費、社会福祉関連費用をどう捻出しようか？」という日本の大きな問題となりつつあります。

そこで大事になるのが、「予防医療」あるいは「プレシジョン・メディシン（精密医療）」の推進です。オバマ前大統領の隠れた功績の１つが　ブレイン・イニシアティブ（2013 年）の推進で現在の国際的な脳科学興隆の基礎となっていますが、その後の一般教書演説においても　プレシジョン・メディシン・イニシアティブ（2015 年）として提唱しています。

最近よく聞くと思います「血液一滴で全身の病気がわかる」という話を。病気が重く症状が出てしまってから診断し「重厚長大」な方法で取ったり照射したり色々手を尽くすのではなく、ごく軽いうちから対処して体に負担がない、社会復帰に支障が出ない様々な「軽薄短小」な方法で診断や治療を行う結果、75 歳以上の患者さんでも「歳だし体力的に保たないから諦めて下さい」ではなく、「頑張って治療してみませんか？」と言うことになり、しかも手段が「重厚長大」から「軽薄短小」に変わることで医療費も抑えられないか？という期待があるわけです。

しかし、「軽薄短小な医療」言い換えれば体に優しい医療のためには、早期発見早期治療が必要ですが、果たして、どれだけの方がメタボ健診やがん検診を受けているでしょうか？　予防医学の点では、今後の「フレイル健診」も大事です。

健診や検診を受けてみませんか？

発行　：独立行政法人労働者健康安全機構富山ろうさい病院　地域医療連携室
富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。
【連絡先】０７６５（２２）１２８０（病院代表）
E-mail：ｃｈｉｉｋｉ２@ｔｏｙａｍａｈ．ｊｏｈａｓ．ｇｏ．ｊｐ